



2023年10月8日 スペシャルアップデート

## イスラエルでの戦争

美しい土曜日、安息日の午前6時30分。イスラエル全土で、スコット、喜びに満ちた仮庵の祭りの最終日に、人々はまだ眠り、ガザとの国境からわずか5キロのイスラエル南部では、1000人以上の若者達が夜通しで参加していた野外音楽祭が、ちょうど終わりを迎えたころだった。この静寂の中で、パレスチナのテロ組織ハマスが、これまでイスラエルに対して駆使されたことのない力を用いて、複数のレベルで包括的な攻撃を開始しようとしていたとは、ほとんど誰も知らなかった。

ドローンが発射され、国境フェンスに沿ったイスラエル軍の前哨基地に爆弾が投下されて、ガザ地区沿いにある地上レベルの指揮系統は即座に無力化された。したがって、何が起きているかを上級レベルの指導者に報告できるものは誰も残っていなかった。同時に、ガザからイスラエルに向けてロケット弾が発射され始め、最初は数百発、やがて数千発となった。ロケット弾の発射は珍しいことではなかったが、異常だったのは、膨大な数のミサイルが、アイアン・ドーム防衛システムを突破したことだ。

これらすべては、これまでガザからは一度も発生したことのない第三の攻撃を隠すために行われた。国境フェンスは突破され、場所によっては完全に破壊されて、千人以上のテロリストがその穴からなだれ込み始めた。その一部は車やトラックに乗り、多くはバイクに乗っていた。彼らは、ユダヤ人狩りをする為に来たのだ。

彼らが最初に見つけたグループの1つは、野外音楽祭にいた若者たちだった。テロリストたちは、野外音楽祭の参加者を取り囲み発砲、260人以上が虐殺された。他の人たちは一斉に拉致され、人質としてガザに連れて行かれた。一方、国境沿いの町やキブツでは、家族らがドアを叩く音に目覚め始めていた。それに対応した人々は冷酷に虐殺され、ここでもまた、多くの人が国境を越えて拉致された。

銃撃が始まると、最初に対応したのは警察、消防士、救急救命士で、彼らの多くは、罪のない民間人を守ろうとしたために殺害された。軍は反応しなかったのか？まず、前述したとおり、国境の伝達隊形が遮断されており、第二に、過去にロケット弾が発射されたとき、多くの場合が、北部のレバノンからイスラエルへの入国を試みるテロリストを隠すための策略であったため、特殊部隊の多くが、間違った方向に進んでいたのだ。

軍が協調して報復を開始するまでに4時間かかり、最終的にそれは「アイアン・ソード作戦」と名付けられたが、その時点で、大虐殺は壊滅的なものになっていた。ユダヤ系民間人の遺体が街路に散乱し、ガザに拉致され、人質に取られた人の数はまだ把握できていない。女性、子供、高齢者、誰ひとりとして、これらパレスチナ人犯罪者の暴力から逃れることはできなかった。ホロコースト以来、これほど多くのユダヤ人が公衆の面前で一斉に拉致され、殴打されて、屈辱を受けたことは無かった。しかも、現代イスラエルの国境内でそれが行われたのは、これが初めてだ。最終的に、戦局が変わると、テロリストたちはガザに逃げ帰った。

イスラエル国防軍（IDF）が彼らを追い、ハマスの幹部から兵士に至るまでのメンバー、およびその本部、倉庫、自宅を標的とした。これはすべて、イスラエル軍による3段階の報復の一部である。第一段階は、イスラエルからすべてのテロリストを浄化することで、この攻撃の一環として、国境を越え、まだイスラエルに滞在している者は逮捕、もしくは殺害しなければならない。第二段階は、イスラエルを脅かすハマスやその他のテロ組織から、すべての軍事能力を奪うことである。これを達成するために、イスラエル政府は宣戦布告に等しい基本法第40条を発動した。前回第40条が使用されたのは、1973年のヨム・キプール戦争だった。これにより、IDFはこの偉業を達成するために空軍、陸海軍のすべての戦力を活用することが可能となる。

イスラエルの報復第3段階は、この攻撃でハマスを支援した国々に責任を問うことだ。ハマスは、単独でこれをやり遂げるほど装備も洗練もされていない。大半は自動的にイランに目を向けるが、米国情報機関は、アヤトラは関与していないとしている。私たちが問うべき疑問は、誰がアイアン・ドームの防衛を無効にするほど高度な妨害装置を持っているのか、ということだ。また、ドローンを効果的に利用して、標的に爆弾を投下した国はどこだろうか？答えはロシアだ。イスラエルによる天然ガス輸出の拡大と、ロシアのイラン、シリア、レバノンといったイスラエルの敵国との関係深化により、モスクワとエルサレムの関係は悪化している。

私の最新小説『*Out of the Far North*』では、この増大する国際的侵害について深く掘り下げている。

これが二度と起こらないように効果的に保証する方法を知るには、この攻撃に至ったきっかけを理解し、これが再び起こらないようにする為には何をすべきかを知る必要がある。このテロ行為の目的は、過去に見られた不満や土地、リベラルな政治家やメディアが思いつくような口実ではない。これは純粋に宗教的な本質を持ち、彼らがこの攻撃に付けた名前「アマーリヤット・トゥファン・アル・アクサ」、または「アル・アクサ洪水作戦」がそれを証明している。ヨム・キプールと仮庵の祭りを囲む聖なる祭日に、記録的な数のユダヤ人達が、神殿の丘としても知られる、エルサレムのアル・アクサ・モスク敷地を訪れ（または殺到し）、それが合法的かつ秩序を持って行われ、またユダヤ人は神殿の丘で礼拝をしたり、イスラム教の礼拝を妨害したりしていないにもかかわらず、イスラム過激派は、これを挑発だと呼んだ。

しかし、ユダヤ人への憎悪は、先週よりもずっと以前から続いていた。過激なシーア派とスンニ派イスラム教徒の両方が同意できることが一つあるとすれば、イスラエル国内のユダヤ人絶滅だ。これは土地の問題ではなく、イランと過激な聖戦主義の狙いによって煽られた、宗教に基づく大量虐殺が全てである。

この憎しみの起源について詳しく知りたい方は、私の動画 [“The Final Jihad”](#) をご覧ください。  
(日本語字幕版はこちら [「ファイナル・ジハード」](#))

この事件や他のイスラエルに対するテロ攻撃の原因は、行動ではなく宗教と民族に基づいているため、これが再び私たちに襲いかかってくるのを阻止するために、ユダヤ人としてできることは何もないことを、私たちは知っている。私たちにできることは、ただ彼らの能力を奪うことだけである。

今後、イスラエルは抑止力を回復しなければならない。それが我が国の軍隊の力への敬意に基づくものであろうと、あるいは、聖戦主義に加われば自分たちや、家族、家に何が起こるかを考えた、潜在的なテロリスト達のそれぞれ個人的な恐怖に基づくものであっても、抑止力を回復しなければならない。それとともに、イスラエルはハマスを排除しなければならない。そのためには、IDF は、世界やメディアが何を言おうと気に留めず、本気を出さなければならない。

次に、多くの疑問が残っている。国境で何が起こったのか？信じられないほど洗練された機器とセンサーを備えていながら、我々はどのようにしてこの攻撃に気付かなかったのか？フェンスが破壊され、そ

これから何百台もの車両がなだれ込んでくるのを、どうして我々は見逃したのか？我々は、我々のアクセスを超えた彼らの新しい通信ネットワークを、どうして知ることができなかったのか？何よりも根本的な疑問は、第一に、世界最高レベルである我が国の諜報機関が、この攻撃について知らなかったということが、どうしてあり得るのか。そして第二に、我々がこのことを知っていたとしたら、誰がその情報を止めたのか？これらは、すべてのイスラエル人が抱えている疑問だ。

私は数多く登場する陰謀論者の一人ではないが、回答が求められる非常に難しい疑問がいくつかあるということには 100 パーセント同意する。

土曜日はイスラエルの 9/11 となり、すでに 700 人以上のイスラエル人の遺体が発見されている。今後数日以内にその数は少なくとも 1000 件に達すると予測され、2000 人以上が負傷し、その多くは重体となっている。

私の祈りは、この恐ろしい出来事が、激しく分裂した我が国に何らかの形で団結をもたらすことだ。また、他の国々が私たちを取り囲み、私たちを支援することで、イスラエルにさらに大きな平和がもたらされることを願う。しかし、私は聖書を知っているので、いかなる前進も長続きせず、イスラエルは日毎に増大する暴力に直面する運命にあることを理解している。

今回私たちが経験したのは、イスラエルに対する攻撃の第一段階だ。比較的小規模なテロ組織の 1 つが、ユダヤ系民間人に大混乱をもたらした。次は第 2 段階で、多数のテロ組織が団結して多方面からの攻撃を行い、ヒズボラは他のイランの代理勢力と協力してイスラエルを打倒するだろう。ニル・タヴォルが *Operation Joktan* で対峙したテロリスト集団、カタイブ・サイード・アル・シュハダでさえ、土曜日の攻撃を受けて、イスラエルと米国に対する脅迫を表明している。第三段階は、国々が他の国々と協力してイスラエルに敵対する。それが、エゼキエル 38 章戦争だ。この攻撃をエゼキエル書 38 章と結びつける人たちがいることを、私は理解している。しかし、次の 3 つの理由から、それはあり得ない。第一に、エゼキエル書 38 章に比べて規模が小さすぎる。第二に、その戦争の参加者全員がこの戦争に関与していない。第三に、米国が約 110 発のトマホークミサイルを搭載した USS ジェラルド・フォード打撃群をこの地域に派遣しているという事実は、これがエゼキエル 38 章の戦争であることを否定している。エゼキエル 38 章のシナリオでは、イスラエルを助けに来る者は誰もいないのだ。

イスラエルのためにお祈りください。愛する人を失った家族のためにお祈りください。拉致された人々、また負傷した人々のためにお祈りください。彼らは皆、想像を超えるトラウマを負っており、今後数か月、数年かけてそれを乗り越えなければなりません。ネタニヤフ首相と政府がハマスに対する対応を決定し、このようなことを二度と繰り返さないよう措置を査定するための知恵が与えられるようお祈りください。何よりも、このことを通して神が何らかの形で栄光を受けてくださるよう、お祈りください。

我が国と同胞を思うと心が張り裂けそうで、このようなとき、私にとって慰めとなるのは聖書だけです。

私たちの敵はみな、私たちに向かって口を大きく開き、  
恐れと穴、荒廃と破滅が私たちのものになった。  
私の民の娘の破滅のために、私の目から涙が川のように流れ、  
私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、  
主が天から見おろして、顧みてくださる時まで続く。

「主よ。私は深い穴から御名を呼びました。

あなたは私の声を聞かれました。救いを求める私の叫びに耳を閉じないでください。  
私があなたに呼ばわるとき、あなたは近づいて、『恐れるな』と仰せられました。」  
哀歌 3:46-50、55-57

主の来臨を待ち望む



ビホールド・イスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@BeholdIsraelJapanese>

日本語の聖書箇所は特記がされていない限り新改訳 2017 より引用しています。

聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会

メッセージの無断転載を固く禁じます。

Copyright © ビホールド・イスラエル All Rights Reserved.